

「芸能プロ」の倒産急増、 2026 年は過去最多に 有名事務所の破綻相次ぐ

「スター依存」諸刃の剣に
問われる「マネジメント」の役割

「芸能プロ」の倒産動向(2026 年 1-8 月、速報値)



本件照会先

飯島 大介（調査担当）
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343(直通)
情報統括部: tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/08/21

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンク
に帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成して
おります。著作権法の範囲内でご利用いただき、
私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

芸能人やタレントのマネジメントなどを手掛ける「芸能プロ」の倒産が相次いでいる。2026 年 1-8 月に判明した「芸能プロダクション(事務所)」の倒産は合計 16 件となり、これまで最多だった 2016 年通年の件数(15 件)を上回った。8 月時点で年間最多記録を更新しており、このペースで推移した場合、通年では初めて 20 件台に達する可能性もある。

株式会社帝国データバンクは、「芸能プロ(事務所)」の倒産発生状況について調査・分析を行った。

[注]

集計期間: 2000 年 1 月～2026 年 8 月 21 日まで

集計対象: 負債 1,000 万円以上・法的整理による倒産

芸能プロの倒産急増 有名事務所の破綻相次ぐ

芸能人やタレントのマネジメントなどを手掛ける「芸能プロ」の倒産が相次いでいる。2026 年 1-8 月に判明した「芸能プロダクション(事務所)」の倒産は合計 16 件となり、これまで最多だった 2016 年通年の件数を上回った。8 月時点で年間最多記録を更新しており、このペースで推移した場合、通年では初めて 20 件台に達する可能性もある。

2020 年以降(～26 年 8 月まで)の「芸能プロ」倒産 73 件を規模別にみると、約 8 割にあたる 57 件が資本金「1000 万円未満」の小規模な事業者だった。また、業歴別では設立「10 年未満」での倒産が 5 割強にあたる 40 件を占め、独立間もない中小事務所の倒産も多かった。

2026 年はアイドルグループ「...そして、消え逝くキミ達と。」を運営していた BEIL エンターテインメント(台東区)の事業継続が困難となり、大きな話題となった。また、タレントのはしのえみさんなどが過去に所属していた佐藤企画(港区)や、俳優の布施博さんが代表を務めていた馬力屋(あきる野市)の破産が明らかとなった。過去には、A.L.C.Atlantis(港区)やタレントの壇蜜さんが所属していたフィット(渋谷区)が破産するなど、近年知名度の高かった芸能プロで経営の行き詰まりが表面化している。

芸能プロはこれまで、将来性のある新人タレントを発掘し、テレビやイベントなどへの登場機会を増やすことで成長を続けてきた。ただ、足元では、テレビ局の制作費削減や視聴者の動画視聴行動の変化により、従来型のテレビ中心のビジネスモデルは収益性の低下に直面している。他方で、TikTok や YouTube、Instagram など SNS プラットフォームの発信力が高まり、SNS 発のタレント輩出が一般化するなど、経営環境が著しく変化している。そのため、実力のある看板タレント・アーティストの独立や移籍が容易になり、特定タレントへの依存度が高い芸能プロでは収益基盤の維持が難しくなっている。タレント以外にも、業界内外で幅広い人脈を有していた創業者の死去・体調不良や、マネージャーの離職といった社内事情が加わり、倒産や廃業に至る芸能プロは少なくない。

こうした経営環境のなか、近年では大手芸能プロを中心に「タレントマネジメント業」から「IP ビジネス」へ転換の兆しもみられ、ライブ開催から SNS、ファングッズ、ファンクラブ運営などを垂直統合することで、マネジメントの価値を創出する動きがみられる。ただ、近時はタレントに対する誹謗中傷や危機管理などトラブル対応のニーズも増えるなど、芸能プロ本来のマネジメント能力が求められるケースも増えている。芸能プロに所属するメリットをどうアピールできるか、存在意義の再定義が問われている。

「芸能プロ」倒産の動向

